

代を集金して次の代参人に渡すという方法をとってきました。現在の代参は観光会社の募集で行われる団体参拝が普通となってきました。

19 山の神

山の神は狩猟や、山仕事の安全を守ってくれるだけでなく、豊作や安産をも祈願する神でもありました。

享保十六年（一七三一）およそ三百年前ごろから、天保四年（一八三三）にわたって十六基の石祠が造立されています。

他に明治三十一年（一八九八）・大正七年（一九一八）に一基ずつ、山の神の板碑が建てられています。

“石祠”は集落から少し離れた小高い山の頂か、中腹の平場に見られます。

栃沢・関山・福永・入宗・柳窪（大久保山）・本郷・螺良岡の石祠には、護符か、注連飾り・藁で注連を作り、餅や炭、麻などを入れて山中の木の枝に掛ける“春山伐り”も、山の神を祭る習慣として現在にほそぼそと残っています。

（螺良岡・本田東男氏の談）

20 水神

「川には水神、谷には木霊」と歌謡に記されているように、水をつかさどる神様です。

像容は一面二臂の天女形（象岡女）で、頭に天冠、身体には天衣をつけ、両手に宝珠を持つといわれています。天冠には何匹かの蛇が巻きつく形がとられ、水神として蛇がからむ姿が特徴となっています。

上小松（関山）に創建の詳らかでないりっぱな水神社が祀られ、境内裏山に明和五年（一七六八）に造立された石祠水神が見られます。

外には宗願町に明治十八年（一八八五）・福光に同三十七年（一九〇四）・福永と大八郷のほぼ中間点の氷玉川土手に年不詳・関山にも年不詳の石祠水神がそれぞれ一基ずつ造立されています。

水神は“水天”ともいわれ、十二天の一つで佛教にとり入れられてから水を支配する“天”となりました。

21 道祖神

“道祖神”と書いて（ドーソジン）と読んでいますが、（ドーロクジン）という所も多く、（サエノカミ）と言って